

<安全保障関連法 3/29 施行>

“戦争をしたいと思っているといますか？”

平和安全法制とは、平成28年3月29日に施行した「我が国及び国際社会の平和及び安全の確保に資するための自衛隊法等の一部を改正する法律」（平和安全法制整備法）と「国際平和共同対処事態に際して我が国が実施する諸外国の軍隊等に対する協力支援活動等に関する法律」（国際平和支援法）の総称です。マスメディア等からは、安全保障関連法案、安保法案、安保法制、安全保障関連法、安保法とも呼ばれています。（私がタイトルに利用したのも、マスコミの通称ですね。）概略は、下記がその主なところです。

- ① 集団的自衛権を認める
- ② 自衛隊の活動範囲や、使用できる武器を拡大する
- ③ 有事の際に自衛隊を派遣するまでの国会議論の時間を短縮する
- ④ 在外邦人救出や米艦防護を可能になる
- ⑤ 武器使用基準を緩和
- ⑥ 上官に反抗した場合の処罰規定を追加

これについては、国民の関心も高く、賛成・反対共に活発に意見が出され、国会審議から法案成立、先月の施工に至るまで、各地でデモが行われたりもしています。法律の専門家でもない私が、この法案について詳しく述べることはいたしません、報道を見ている中でどうしても“変だな？”と、感じたことが1点あります。それは、反対派の議員、民衆共に、「戦争反対！」と声を上げていることです。

そもそもこの法案は戦争をしたくて作る法律なのでしょうか？政治家を始め、日本人の多くの人が戦争をしたくないと思っていることは、間違いないことだと思います。そんな中でどうして反対派の人は、この法律＝戦争をしたと言っているのかと考えるのだろうと、不思議に感じました。議論をするには、相手の意見にも耳を傾け、しっかり理解しあい、そのうえで自分たちの考え方を述べるという基本的なところが欠落しているように、私の眼には映りました。これは、組織の中でも非常に大事なことで、改めて実感しました。そして、自分の身は自分で守る。

国も個人も企業も現場も、安全に対する基本のところは、みんな同じなのではないでしょうか？

<後を絶たない高齢者事故>

いくつまでまだ若い？

毎日のように、交通事故の報道がされる中で、特に近年特に多いと感じるのが、高齢者ドライバーによる「えっ！？」と、声を上げたくなるようなおかしな事故ではないでしょうか？

高速道路の逆走、アクセルとブレーキの踏み間違い、交差点での判断ミス、店舗等へ突っ込んでいく等々後を絶ちません。

実際に、10年連続で交通事故件数は減少しているにもかかわらず、高齢者による交通事故は増加しているのです。これは、単に高齢者の割合が増加した、人口バランスの原因だけではないようです。それは、高齢者自身が自分の老いを自覚できていないところにあると、言われています。19世紀の作家の言葉に、「老年の悲劇は老いているところではなく、まだ若いとおもうところにある。」と、あります。

実際に、全年代に“事故を回避する自信があるか？”と聞いたところ、60歳以下では10%前後しか自信のある人がいないのにも係らず、65歳を越えると割合が急激に増え、75歳以上では53%の人が「自信がある」と答えているのです。私自身、事故を起こしたことはありませんが、運転に自信があるとはとても言いきれません。その過信が、事故の潜在的な要因の一つになっていることは、疑いようのない事実だと感じます。また、そういう背景があるからこそ、「自分は大丈夫」と、免許返納や高齢者ドライバーの事故を他人事と思っている高齢者が多いのでしょう。

まずは自分の身の回りにいるご高齢の方々から、運転の様子を気にかけて、声をかけてあげることから始めてみましょう？家族の言うことだと聞かないようであれば、行政の支援を探してみるのも一つの手です。

事故を一つでも減らせるように、心と時間に余裕のある運転をしましょう。

今日の心に良い話 毎日の自分に役立つ、あるいは迷った時、悩んだ時に、皆の力になるような言葉を与える

テーマ：『子供を叱る』

あるお家でのトラブル

仕事から戻りたくたのママが、買い物袋をかかえて台所へ入った。待っていたのは八歳の息子。弟がやったいたずらを、しゃべりたくてうずうずしていた。

『ぼくは外で遊んでいて、帰ってきたらあいつがクレヨンで、壁に落書きしてあった。ママが寝室にはったばかりの、新しい壁紙にだよ。そんなことしたら、ママが怒るぞって言っといたよ。』ママはうめき声をもらして眉を寄せた。『あの子は、どこ？』

ママは荷物を下ろして、決然とした足取りで、末っ子が隠れたクローゼット目指して、歩いていった。

それからの10分間、ママはわめき、怒鳴りちらした。

「あの壁紙は高かったのよ、せっかくお休みの日に苦労して張ったのに、元通りにするのはたいへんなんだから。なんてことしてくれたのよ、いたずらにもほどがあるわ。・・・」

叱れば叱るほど、腹の虫がおさまらない。ママはすっかり取り乱し、部屋から大またで出ていった。

惨状を確かめようと、おそろおそろ壁紙に向かったママ。壁を見たとき、目に涙があふれた。読んだメッセージがダーツのように心を貫いた。

ハートで囲まれた『ママ、大好き』

その壁紙は、今もママが見たときそのまま残っている。まわりに、枠だけの額縁が吊るされて、ママにとっての、みんなにとっての思い出の品。ときどき足を止めて眺める、壁の落書き。

「叱るということ」

それ以後、子供を叱ろうとする前に、「子供のやったことはOKではないが、人間としてはOKなのだ」と、自分に言い聞かせるようにし始めました。すると、子供たちは、叱られたことを恨みに思うのではなく、自分のやったことを、反省してくれるようになります。

叱ることって本当に難しい。子育てに限らず、仕事においても同様です。冷静な自分を保っていますか？

怒るのではなく、冷静な自分を見つめながら、相手を叱ってあげられるようになりたいものです。

暦について学ぶ

先日、神主さんのお話を聞く機会があり、暦についてのお話を拝聴しました。

暦と聞くと、まず浮かぶのがカレンダー。そして、よく目にする、あるいは気にかけるのが、大安・仏滅などの日がいいのか悪いのかという表記です。ここまでは一般的、誰でも知っていることですね。

さて、大吉、友引などを六曜と呼ぶのですが、それ以外にも、二十八宿、十二直と言われる、日の吉凶を表すものがあるのです。

二十八宿は家を建てる、布を裁つ、婚礼等の行事ごと等昔の生活に密着した吉凶が表されております。

もう一つの十二直は、建、除、満、平、定、執、破、危、成、収、開、閉の12文字からなり、漢字が意味を表しています。例えば、危は『何事にもあやうき日故、旅立、船乗り等わろし』、執は『すべて手に入れることによし』となっています。

その他にも、太陽太陰暦の話から、24節季のことから、三隣亡などの選日まで様々なことを教えていただきました。暦がこんなに奥深いなんて、今まで知らなかった自分を恥ずかしく感じました。

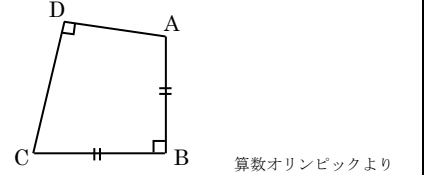
改めて、知る機会を与えてくださった木内建設様に感謝申し上げます。



☆編集後記☆ 今回、4月号で新入社員も増える時期ということもあり、頭の体操【1分間で考えよう】に、敬語の問題を入れてみました。敬語を正しく使うことは当たり前とはいえ、大変難しく、電話口でも、会議の場でも、講演等の場でも、あれ？というような敬語を耳にすることは間々あります。それだけに、正しい知識を身につけ、マナーとしてきちんと使えることは、大人としての第一歩なのでしょう。しかしながら、主に話し言葉からくる若者言葉が、通常の日本語として（例えば一所懸命と、一生懸命のように）認められていくことと同様に、本当は間違った敬語が、いつしかそれでもOKになるのかもしれない。そう感じることも自体が、若い世代にない自分を実感する今日この頃です。（*_*）

頭の体操【1分間で答えよう】

① 図のように、AB=BC、∠B=∠D=90度、CD+DA=5のとき、この四角形の面積は？



- ② どちらが正しいでしょうか？
- (1) () こちらの書類を拝見してください。
 - () こちらの書類をご覧ください。
 - (2) () 部長、お客様が参りました。
 - () 部長、お客様がいらっしゃいました。
 - (3) () 隣でお連れ様がお待ちしています。
 - () 隣でお連れ様がお待ちになっています。
 - (4) () こうするともっとおいしくいただけます。
 - () こうするともっとおいしく召し上がれます。

- ③ どういう意味でしょうか？
- (1) 流れに掉さず ()
 - (2) お裾分け ()

☆当社ホームページに解答を掲載してあります。ある程度の時間、悩んで頭を使った後、解答を見て“スッキリ”してください。URL:<http://katokin.net>

☆III 鈴川発電所☆

桜並木がきれいに続く、国道1号線を富士方面へ向かっていくと、海側に建物の上から生えた様な煙突が見えてきます。

2013年12月に公式発表され、日本製紙、三菱商事、中部電力の3社による新会社、鈴川エネルギーセンターが設立され、富士市今井の日本製紙富士工場敷地内に、新たに火力発電所が建設されました。

ボイラー、タービン等の大型建屋をスタートに、いろいろな設備の建屋が建設されました。耳慣れない設備名と広い敷地の中の配置に、積算、事務所、職長、運搬共に、まごまごすることもあつりました。

鉄筋工事としては、平成26年夏から約1年間で主だった設備が完了し、そこから現在に至るまでまごまごと作業が続いております。外観的には写真の通りほとんど完成している状態です。

工事中は紆余曲折あり、苦勞の多い現場でしたが、終わってみるとそれもまた思い出の一端となりました。この発電所が、富士市を明るく照らすエネルギーの出発地として、活躍する日が待ち遠しいです。

